

教 育 長 様

校番 069 広島県立高陽東 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
平成30年度 報告書**

研究の概要**研究の目標**

論理的思考力を育成するカリキュラムについて、総合的な学習の時間を中心に基礎的な研究を行う。

研究内容

○総合的な学習の時間等における「探究的な学習」の充実について

- (1) 総合的な学習の時間、教科・科目、特別活動の効果的な関連、また関連させた横断的・総合的な学習（授業）の効果的な実施について、各授業担当者がカリキュラム・マップに基づき、目標関連、内容関連双方の視点から授業を複数回実践した。例えば「地学基礎」では、2年次3学期に地球環境の保全に係る諸課題について考察するグループ学習において、「情報処理」で身に付けた「インターネット等から得た情報を収集して活用する能力」と「英語表現Ⅱ」で身に付けた「知識をサマリーして表現する能力」とを関連させた横断的・総合的な学習（授業）を実施した。また、「保健」では、2年次2学期に我が国の医療制度についての知識構成型ジグソー法を用いた学習において、「現代文B」で身に付けた「知識を実生活に繋げて自分の考えや生き方を振り返る能力」を関連させた横断的・総合的な学習（授業）を実施した。
- (2) 「産業社会と人間」では、2月のライフプラン生徒発表会において、ひろしまジーン大学学長の平尾順平先生を講師として迎え、生徒発表の講評と講演会を実施した。特に講演会では、平尾先生のこれまでの在り方生き方を踏まえた体験や経験を「私のライフプラン」として講演をしていただき、生徒は今後の高校生活やその後の人生における自己の在り方生き方について考える視点を得ることができた。
- (3) 「総合的な学習の時間」について、「産業社会と人間」との関連性も踏まえながら、3年間の学びの流れをインプットからアウトプットまでを中心として再構成し、課題設定からプレゼンテーションまでを段階的・系統的に学ぶための「探究ノート」を作成・活用し、効果的な探究活動を行うことができた。

○資質・能力の評価について

- (1) 広島大学の松浦拓也准教授を講師として迎え、11月に、資質・能力のとらえ方及びその評価方法、授業研究の進め方等について研修会を実施した。また、3月に、新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントと評価について研修会を実施した。
- (2) 国の答申、学習指導要領、県の施策、地域や生徒の状況等を踏まえ、学校全体で育成する生徒の「資質・能力」について、見つける力（課題発見力）・考える力（探究力）・繋がる力（社会参画力）の3つの尺度で整理し、それぞれ4段階の到達目標を示したルーブリックに基づいて評価した。特に「産業社会と人間」では、職業調べ、ライフプラン作成や発表等の生徒の活動状況、発表内容、成果物について見つける力（課題発見力）・考える力（探究力）・繋がる力（社会参画力）の3つの観点のルーブリックに基づいて複数名で評価した。

今年度の成果と次年度の課題**【成果】**

「産業社会と人間」では、3つの尺度について学習活動の成果物や発表内容をルーブリックに照らし合わせて評価を行った。見つける力（課題発見力）・考える力（探究力）においては、約8割の生徒が、繋がる力（社会参画力）においては、約7割の生徒が1年次生の目標とするレベル2の段階に到達していることが分かった。

【次年度の課題】

学校全体で生徒に育成する資質・能力を踏まえ、総合的な学習の時間、教科・科目等の効果的な関連指導に係る方法、評価等について、カリキュラム・マネジメントの視点から明らかにしていく必要がある。